

2013年（第7回）若手外国人農林水産研究者表彰受賞者業績概要一覧

受賞者	業績名	国籍	所属
リーホン ナ 31歳	DNA アプローチによるマレーシアの重要木材種 <i>Neobalanocarpus heimii</i> (フタバガキ科)の木材追跡システム	マレーシア	マレーシア森林研究所 (FRIM)
<p><業績概要></p> <p>森林資源の保護とその持続的利用を促進するためには違法伐採の抑止が重要となるが、原産地証明書や従来物理的タグ付けに依存した木材追跡システムでは、偽造などの影響により合法性確認に支障が生じる恐れがある。受賞者は、DNA マーカーによる木材追跡システムの開発に携わり、東南アジア地域の貴重な木材資源であるフタバガキ科の1樹種に適用可能なシステムの世界初の構築に貢献した。本システムはマレーシアのその他の重要樹種の研究モデルとして既に利用されており、今後同様のシステムがその他主要樹種にも適用され、東南アジア地域を始めとする森林資源の保護とその持続的利用の促進、地域の環境保全に貢献するものと期待される。</p>			
ノウマン ベルコ 35歳	ササゲ (<i>Vigna unguiculata</i> L. (Walp.))の耐乾性に関する効率的な評価と選抜	ブルキナファソ	セネガル農業研究所 (ISRA)
<p><業績概要></p> <p>マメ科の一年生作物であるササゲは、西アフリカのサハラ砂漠以南の地域の主要な作物であり、現地のタンパク源として重要な伝統食材である。この地域には半乾燥地帯が広がり、気候変動の影響を強く受ける地域であるため、作物への耐乾性の付与が重要となる。受賞者は、作物の乾燥適応に関連した形質の特定と特徴付けを行い、高収量で耐乾性の高いササゲ品種を選抜した。選抜に際しては、赤外線温度イメージングなどの技術を導入し、選抜操作の効率化と選抜基準の定量化・標準化を実現し、関連研究の進展の加速化に貢献した。受賞者により開発された技術を用いた品種開発が今後更に進展することで、高収量で安定したササゲ生産が可能となり、地域の食料安全保障と貧困削減、さらにはバリューチェーンの向上に貢献するものと期待される。</p>			
パヌワン チャンタワンナクル 38歳	ミツバチ病理学とアジアにおける養蜂の開発	タイ	チェンマイ大学
<p><業績概要></p> <p>ミツバチは蜂蜜を始めとするその生産物の利用や作物の受粉媒介などとして人類と古くから関わりのある昆虫であるが、アジアにおけるハチ病理学研究の歴史は浅く、受賞者はその草分け的存在であり、この分野を主導する役割を担った。活躍は病理学のみならず、ハチの害虫、行動、生産物など、本分野で多くの研究論文を発表し、これらの知見はタイの蜂蜜基準ガイドライン及び国際獣疫事務局 (OIE) に準拠した同国の病気診断ガイドラインにも反映されたほか、プロポリスを利用したナノ繊維の開発などハチ製品による材料科学の発展にも貢献した。研究手法開発の面においても、リアルタイム PCR によるウイルスの迅速検出手法を開発した。得られた成果は、農業のみならず、材料科学、健康・医療などの分野で、関連産業の更なる発展に貢献するものと期待される。</p>			